

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ダイセル

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市東栄二丁目1番4号

(3) 業種

1631 石油化学系基礎製品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成28年度を基準年度とし、平成29年度から平成31年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

株式会社ダイセルでは2013年1月17日に公表された一般社団法人日本経団連の「低炭素社会実行計画」に参加し、省エネ推進委員会を中心に2020年度のCO2排出量削減目標に向けて、「エネルギー部門の省エネ」、生産革新による「現行生産プロセスにおける省エネ」「革新的省エネ」の3つの切り口から省エネルギーを推進しています。

大竹工場では、改良Petlyuk蒸留、マイクロリアクター、網干工場との連携による大竹工場エネルギー最適化運転等に伴う新技術の導入により省エネを推進し、CO2排出削減に取り組んでいきます。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成28年度	平成28年度
二酸化炭素	219,973	530,105	530,105

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成28年度	平成28年度
二酸化炭素	-	227,534	227,534

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成28年度	平成28年度
メタン	0	232	232
一酸化二窒素	11	124,110	124,110
HFC PFC SF6	-	807	807

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)		削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO ₂					0
非エネルギー起源CO ₂					0
メタン					0
一酸化二窒素					0
フロン類					0
温室効果ガス 実排出量総計					0
温室効果ガス みなし排出量		-			0
目標設定の考え方					

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産量 (千トン)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位数 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成28年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成31年度)		
	排出量 (a)	原単位数 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	530,105	203.3	2607.5	19.6	496,033	236.6	2096.5
非エネルギー起源CO ₂	227,534	203.3	1119.2	-1.3	268,169	236.6	1133.4
メタン	232	203.3	1.1	14.0	232	236.6	1.0
一酸化二窒素	124,110	203.3	610.5	17.6	119,070	236.6	503.3
フロン類	807	203.3	4.0		807	236.6	3.4
総排出量	882,788	203.3	4342.3	13.9	884,311	236.6	3737.6
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	545.0				429.4
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・各原単位の良化は ①各製造プラントにおいて省エネの取り組みを行うため ②ボイラー燃料 (石炭、廃タイヤ) で廃タイヤの比率を上げるため 						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃タイヤの有効利用	原油換算 11,415kl/年の省エネルギー(平成29年度)	ボイラーでの廃タイヤ燃焼
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

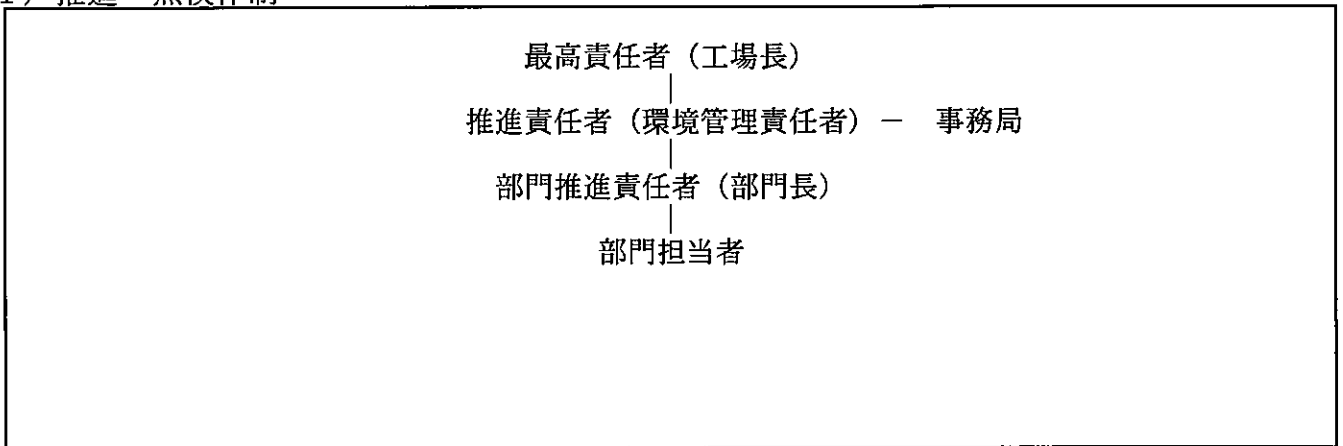
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物のリサイクル推進	リサイクル率99%以上	ボイラー廃棄物のセメントリサイクルの推進継続
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

IS014001規格に適合した、環境マネジメントシステムプログラムに盛り込んだ活動を行い、内部監査、マネジメントレビューで実施状況を報告する。

(3) 計画書等の公表

当社のHPなどで公表する。